

●関連トークイベント

米原万里 を語る

第1回 4月15日(土) 河野通和×福岡伸一
第2回 4月23日(日) 井上ユリ×宇野淑子
いずれも14:00～16:00(開場は13:40)
会場 渋谷男女平等・ダイバーシティセンター 会議室
(渋谷区文化総合センター大和田8F)

参加費●展示会入場券込みで1,000円

(当日、2階展示会場受付でお支払いください)

参加方法●要予約(先着順)

予約申込●4月1日(土) 正午から、
NPO法人げんきな図書館申込フォームへ
<http://www.genkina.or.jp/>

●第1回 4月15日(土) 河野通和×福岡伸一

河野通和(こうの みちかず)
1953年岡山市生まれ。78年東京大学文学部ロシア語ロシア文学科卒業。同学科大学院に米原万里、亀山郁夫氏らがいた。同年4月、(株)中央公論社(現・中央公論新社)入社。97年婦人公論編集長。98年3月、『婦人公論』創刊83年目にして初の本格的なりニューアルを手がけ、成功を収める。2001年雑誌編集局長兼中央公論編集長。02年取締役雑誌編集局長兼中央公論編集長。08年6月、取締役雑誌編集局長兼広告総括部長を最後に(株)中央公論新社を退社。09年1月、(株)日本ビジネスプレス特別編集顧問に就任。10年6月、(株)新潮社入社(役員待遇・出版部「考える人」編集長)。著書に『言葉はこうして生き残った』(ミシマ社)、『考える人の読書案内』(角川新書 3月刊行予定)がある。

福岡伸一(ふくおか しんいち)
生物学者。1959年東京生まれ。京都大学卒。ハーバード大学医学部博士研究員、京都大学助教授などを経て青山学院大学教授・ロックフェラー大学客員教授。サントリー学芸賞を受賞し、80万部を超えるベストセラーとなった『生物と無生物のあいだ』(講談社現代新書)、『動的平衡』(木楽舎)など、“生命とは何か”を動的平衡論から問い直した著作を数多く発表。翻訳に『ドリトル先生航海記』(新潮社)、近刊に『芸術と科学のあいだ』(木楽舎)。最新刊は『生命科学の静かなる革命』(インターナショナル新書)。2015年11月からは、読書のあり方を問い直しブックマイスターを育てる「福岡伸一の知恵の学校」をスタートさせ、校長をつとめている。米原万里の熱心な愛読者。



●第2回 4月23日(日) 井上ユリ×宇野淑子

井上ユリ(いのうえ ゆり)
1953年東京生まれ。父の仕事の関係で小学校1年のとき、両親、姉(米原万里)とともにチェコスロバキアへ。在ブラハソビエト学校で学ぶ。6年のとき帰国。北海道大学卒業後、高校の理科教員を経て、大阪辻調理師専門学校で学ぶ。同校勤務ののち、イタリアで料理研修、帰国後料理教室を開き、現在に至る。1987年、井上ひさしと結婚。2008年には「米原万里展『通訳から作家へ』」を企画、構成、編集した。著書に『今日から私は一流シェフ』全4巻(新日本出版)、編著書に『米原万里を語る』(かもがわ出版)、昨年『姉米原万里一思い出は食欲と共に』(文藝春秋)を刊行。

宇野淑子(うの よしこ)
1942年東京生まれ。東京教育大学(現・筑波大学)卒業後、TBSにアナウンサーとして入社。定年までの38年間、いわゆる「女子アナ」を務める。「CBSドキュメント」や「筑

紫哲也のニュース23」など報道番組のナレーターを中心に、企画番組などにも携わり、ノンシスト賞グランダプレミオ、放送文化基金賞奨励賞などを受賞。また日本の戦後責任の問題として放置されたままだった「サハリン残留韓国人」を長期にわたり取材。その取材記録は潮賞ノンフィクション賞を受賞。著書に『離別の四十五年～戦争とサハリンの朝鮮人』(潮出版社)、『私の介護家族戦争』(講談社)がある。米原万里との親交は2001年秋、日本ペンクラブの「獄中作家委員会」に共に所属してから始まった。

